

第10回機能的脳外科疾患定位手術 トレーニングを開催いたします

平成20年9月1日・2日・3日開催
お申し込みは病診連携室へ
電話: 027-362-6201
1日参加や手術見学のみも可能です

9 / 1 (月)	午前	「定位脳手術の総論」 日高病院腫瘍センター長 大江千廣先生
		「運動の神経回路」 鈴鹿医療医科大学保健衛生学部長 中野勝磨先生
		「PPNの構造と機能」 群馬中央脳神経外科病院副院長 松村賢先生
		「脳深部電気刺激法」 日本大学病院脳神経外科教授 片山容一先生
9 / 2 (火)	午後	「視床機能分化」 日高病院腫瘍センター長 大江千廣先生
		「定位脳手術の実例 三叉神経痛・てんかん」 東京女子医科大学脳外科教授 堀智勝先生
	午後	「定位脳手術の実例 視床手術」 日高病院腫瘍センター長 大江千廣先生
		「レクセルガンマナイフによる視床手術」 日高病院脳神経外科医長 柴崎徹先生
9/3(水)	終日	「随意運動の神経機序」 東京医科歯科大学神経機能学教授 篠田義一先生
		「パーキンソン病の基礎と臨床」 群馬大学神経内科教授 岡本幸一先生
9/3(水)	終日	機能的疾患手術見学

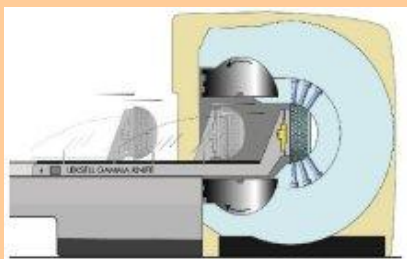
日高病院では、ガンマナイフが設置されて以来、従来の極小電極による定位脳手術と並行して、機能脳外科の治療にも力を注いで満足すべき成果をあげてきました。機能脳外科はご存知の通り、パーキンソン病をはじめとする不随運動、疼痛、てんかん等の機能疾患を対象として、定位脳手術の方法による治療法です。この手術では、脳の深いところにある異常な神経細胞群を正確にとらえ、小さな凝固、あるいは照射を行うこと、または電気刺激を与えることが治療になっています。

この勉強会のはじめはガンマナイフを備えた施設の若い医師を対象とした、トレーニングの意味が強かったですが、徐々に参加者の層が広がり、機能脳外科に関心を持つ一般の医師、大学院生、技術者も参加されるようになってきました。国内の参加のほかに韓国、中国からの参加もありました。最近では更に範囲を広げて、地域医療にかかわる先生方にも気軽に参加していただけるように配慮しています。この研修会は、国内はもちろんのことアジア諸国、更に世界の医師や患者様を視野に入れたレベルの高いものです。ふるってご参加頂ければ幸いです。

日高病院腫瘍センター長
大江 千廣

日高病院腫瘍センターの機能 ～ガンマナイフについて～

ガンマナイフ治療 「頭を切開せずに脳血管障害や脳腫瘍を治療する方法」



ガンマナイフは、カリフォルニア大学脳外科のレクセル教授によって開発されました。具体的には、201の細かいビーム(コバルト60)を虫眼鏡の焦点のように病巣部にのみ照射する治療法です。適応病名としては、『聴神経腫瘍』『髄膜腫』『下垂体腫瘍』『転移性脳腫瘍』などです。また、『脳動静脈奇形』にも高い効果があります。

ガンマナイフ治療の仕組みと特徴



ガンマナイフ本体には、頭部に装着されたリメータヘルメット(左記写真)の201個の穴を通じてコバルト60から発生するガンマ線が病巣部に集中照射されます。照射時に貫通する頭皮、骨、脳、血管、神経への影響は少なく、照射を受けた病巣のみが徐々に凝固・壊死します。更に、照射の誤差は±0.5mmと高精度であるため、正常組織にほとんど影響を与えません。しかし、病巣の大きさや位置、種類によってガンマナイフによる治療が適している場合と、開頭手術が適している場合がありますので総合的な判断が大切になります。

ご相談窓口は病診連携室です。お気軽にお問い合わせください。